

佐賀弁の分析から日本語全般の時制の分析へ

古賀 弘毅

佐賀大学 留学生センター

2007年3月4日 第3回人工頭脳工学研究会シンポジウム

1. 概要 芦刈地域で話される佐賀弁の「現在形」動詞の文末の声門閉鎖音 (glottal stop, ‘?’) (促音「っ」) は、どのような統語・音韻・形態環境で現れるか。この芦刈・佐賀弁の現象の本研究を基にして、日本語の標準語、方言、古典語の動詞および「現在」時制の新たな一般的な理論が提案される。

2. 現象 芦刈地域の佐賀弁で、文末で、動詞の「現在」形に声門閉鎖音が現れるのは、表1にその例があるように、母音/e/終末動詞基動詞群 (V/e/)、不規則動詞/k/ ‘come’ 群、不規則動詞/s/ ‘do’ 群の場合と、子音終末動詞基動詞 (C) のうちの「1文字漢語s」群 (例えば、「愛s」) の場合である。

形態クラス	標準語	芦刈・佐賀弁
C	kak u	kak u
C	ur u	u:
C	愛 s u ru	愛 s u ?
V/e/	ne ru	n u ?
V/i/	oki ru	oki:
/k/ ‘come’	k u ru	k u ?
/s/ ‘do’	研究-s u ru	研究-s u ?

表 1: 芦刈地域の佐賀弁の声門閉鎖音 ?

どの場合においても/u/が声門閉鎖音の直前に現れている。母音/e/終末動詞基の場合を除けば、標準語で動詞基に後続する/u ru/の/ru/に対応する部分で、声門閉鎖音が起こっている。

3. 先行研究 早田 (1998) は、武雄地域の佐賀弁では、「る」で終わる「現在」形の動詞すべて (表1中であれば、/ur u/と/oki ru/を含む/r u/ /ru/で終わるすべての場合) において声門閉鎖音が起こっていることから、表2のように、語幹末母音変音 (/e/から/u/への変音)、「現在」形は/ru/のみとした上での子音消去、/u/消去、/r/声門化を提案している。

ところが、芦刈地域の佐賀弁では、子音終末動詞基群と母音/i/終末動詞基群との場合において、「/r/声門化」は起こらず、例えば/u:/ (「売ー」)、/oki:/ (「起きー」) のように、長音が起こるので、早田

/ur ru/	/ne ru/	/oki ru/	語幹末母音変音
-	nu ru	-	子音消去
ur u	-	-	/u/消去
ur	nu r	oki r	/r/声門化
u?	nu?	oki?	

表 2: 早田 1998 の音韻規則の適用

(1998) はそのまま芦刈地域の佐賀弁の声門閉鎖音に適用できない。また、早田 (1998) では、子音終末動詞基の「1文字漢語s」群と、不規則動詞/k/ ‘come’ 群と/s/ ‘do’ 群は分析されていない。

4. 提案

4.1. 音韻-統語の制約 本研究は、図1のように、声門閉鎖音は、時制暫定形態の2重に重なる場合の後ろの文末の/r/の代わりに起こると提案する。

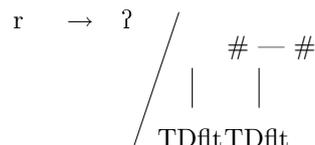


図 1: 声門閉鎖音制約：芦刈地域の佐賀弁

動詞の右端で/r/の直後における/u/が消去される早田 (1998) の規則と同様のものを仮定しいる。/u/の無生起の直前の/r/に提案した音韻-統語制約が働く。

4.2. 形態・統語・意味 意味に関して、語・形態に、それ自体が本来、持つ意味が関連付けられている。形態・統語に関して、以下を仮定し、時制暫定形態の連なりを説明する。

4.2.1. 時制暫定形態と動詞の基底形 本稿は、/ru/と/u/を時制の暫定形態 (tense default form) と提案する ((1a))。/ru/も/u/もそれ自体は、意味を持っていない。母音/e/終末動詞基動詞群の動詞は、その/e/を削除したのもも動詞基として持つと仮定する。例えば「寝る」については、1R → ne に加えて、(1c) がある。子音終末動詞基動詞群の「1文字漢語s」群動詞と、不規則動詞/k/ ‘come’ 動詞群と/s/ ‘do’ 動詞群の動詞については、その「現在」形から/u ru/

を削除したものを動詞基として持つと仮定する（例えば (1b) (1d) (1e)）。

- (1) a. TDft → (r)u
- b. 2R → ais
- c. 1R → n
- d. 1R → k
- e. 2R → kenkyuu-s

4.2.2. 時制暫定形態の再帰規則 時制暫定形態 (TDft) が時制のない節 (0R) を補節として取れば、それは全体で時制暫定形節 (TDftR) となる ((2b))。文法が通常の「文」として受け入れるものはここでは時制節 (Tensed Relation: TR) であり、時制暫定形節 (TDftR) も時制節 (TR) と見なされる。これらの仮定の上で、本稿は、時制暫定形態を繰り返す再帰規則、(2a)「時制暫定形態 (TDft) は、さらに補節として時制暫定形節 (TDftR) を取り、全体で時制暫定形節 (TDftR) である」を提案する。

- (2) a. TDftR → TDftR TDft
- b. TDftR → 0R TDft

以上により、例えば「寝る」に関しては、/n u/ (古典語) のみならず、/n u ru/ が、TR(時制節) に最後に生起する「動詞-時制暫定値-時制暫定値」として文法的に正しくなる。

4.3. 語用論 語用論において (3) を仮定する。

- (3) $\lambda X \lambda e \exists t [X(e)(t) \ \& \ t \in T_{Present}]$ is free in pragmatics, where $T_{Present}$ is an interval of time each point of which is equal to or later than the speech time, or $\{t \mid t_{Speech \ Time} \leq t\}$.

これは、佐賀弁の形容詞-繫辞 (例えば「うまか」 'is delicious') の解釈でも必要となる。時制の意味については Abusch (2004) を見られたい。

5. 予測 本理論は語列 (4a) に関して以下のように正しい予測を生む。音韻-統語制約 (図1と/u/の無生起) は音列 (4b) と音韻列 (4c) とを関連付ける。

- (4) a. kodon no nu?. [= ne-ru]
 child Nom sleep[Nonperf] [stndrd Jpns]
 'Children will sleep.'
- b. [kodon no nu?]
- c. /kodon# no# n# u# ru#/
 TDft TDft

本形態・統語分析によって、音韻列 (4c) は、時制節 (TR) であり、図2の樹形図のように分析される。

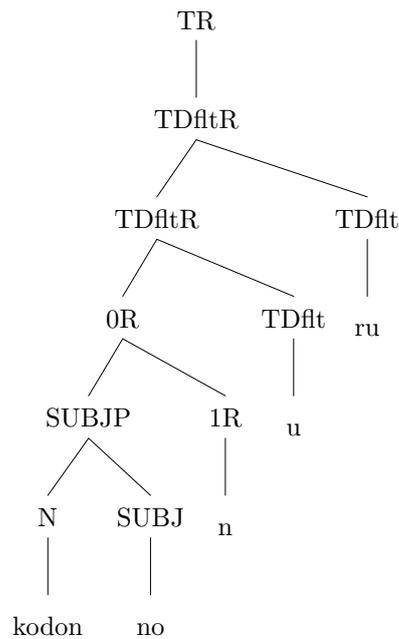


図2: 音韻列 'kodon no n u ru' の分析

/n/の意味 (5a)、/kodon no/の意味 (5b)、/u/と/ru/の無貢献の意味から、統語分析に沿った関数適用により、語・形態自体の持つ意味を基にした時制節全体の意味は (5c) である。

- (5) a. $\lambda e \lambda t [sleep'(e)(t)]$
- b. $\lambda X \lambda e \lambda t [\exists x [child'(x) \ \& \ X(e)(t) \ \& \ SUBJ(e, x)]]$
- c. $\lambda e \lambda t [\exists x [child'(x) \ \& \ sleep'(e)(t) \ \& \ SUBJ(e, x)]]$
- d. $\lambda e \exists t [\exists x [child'(x) \ \& \ sleep'(e)(t) \ \& \ SUBJ(e, x) \ \& \ t \in T_{Present}]]$
- e. $\exists e \exists t [\exists x [child'(x) \ \& \ sleep'(e)(t) \ \& \ SUBJ(e, x) \ \& \ t \in T_{Present}]]$

この意味 (5c) に語用論の (3) が適用し、これは (5d) と解釈される。この意味は (5e) (子供が寝るという出来事が存在する) とさらに解釈される。

参照

Abusch, Dorit. 2004. "On the temporal composition of infinitives," in Gueron, Jacqueline, and Jacqueline Lecarme, *The syntax of time*, 27-53. Cambridge, MA: MIT Press.

早田輝洋. 1998. "佐賀方言の動詞未完了連体接辞の基底形." 『九州大学言語学研究室報告』, 19, 1-4.